

トロント仏教会 年次総会のお知らせ

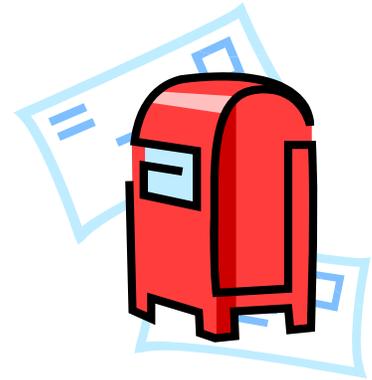
11月30日(日)
午後1時より

上記の日程で、2014年度年次総会を行わせていただきますので、会員の皆様は出来る限りご出席いただきますようお願い申し上げます。

なおどなたでもご出席はいただけ

毎月トロント仏教会では何百通もの新聞を郵送しています。最近、郵送費が上がり、運営コストが増加しています。もしインターネット接続環境があまりならウェブサイト www.tbc.on.ca でご覧になる事をお考え下さい。なおウェブサイトにはプライバシーの関係上、ドネイションリストは載せておりません。役員会では印刷版もドネイションリストを外すことを検討中です。

新聞の郵送をおやめになる事をお考えの方はパメラ吉田 (pan.yoshida@tbc.on.ca) またはダイアン石田 (dianne.ishida@tbc.on.ca) までお知らせ下さい。また質問やご意見もどうぞ。



今月の法語

如来の興世にあひがたく
諸仏の経道ききがたし
菩薩の勝法きくことも
無量劫にもまれらなり

浄土和讃(六十八) 大経讃

第15回世界仏教婦人大会

第15回世界仏教婦人大会が来年の5月30日～31日カルガリーにて開催されます。11月29日が参加受付の最終締め切りですので、ぜひご参加下さい。本大会は年齢、国籍、人種を越えて、国際規模で浄土真宗婦人会の交流を深める事を目的とした大会です。北米・日本・南米の仏教徒が一緒になって、経験を共有し合い、ともに学び、仏様のみ教えを聴聞し、さらにお念仏の輪を広げる素晴らしい機会になる事でしょう。英語基調講演は宇宿パトリシア師、日本語基調講演はやなせなな師です。

大会ウェブサイトより参加申し込みが可能です。

www.wbwconvention.com

一流安心章の大意

浄土真宗の安心というのは南無阿弥陀仏の六字のいわれを聞き開くことです。

善導大師はこの六字を、「言南無者即是帰命亦是発願回向之義 言阿弥陀仏者即是其行以斯義故 必得往生」と釈されています。

「南無」とは帰命ということであり、帰命とは、衆生が阿弥陀如来におたすけくださいとおまかせすることです。

また発願回向とは、おまかせした衆生を如来がおさめとつてお救いになることです。

これはそのまま「阿弥陀仏」の四字の意味でもあります。

そこで私たちのような愚かなものは、どういふ心もち、また阿弥陀如来をどのようにたのみたてまつればよいのかというと、自力にたよることをやめ、後生をおたすけくださいと二心なく阿弥陀如来におまかせするのです。そうすれば、浄土に往生することは疑いありません。

このように、「南無」の二字は、衆生が阿弥陀如来をたのみという機をあらわしており、「阿弥陀仏」の四字は、たのみ衆生をおたすけくださる法をあらわしているから、機法一体の南無阿弥陀仏というのです。このようにいわれがあるので、私たちの往生は南無阿弥陀仏の六字にあらわし尽くされているのです。

(四帖第十四通)

敬 弔

次の方が御往生されました

生前のおもかげを偲び、謹んで敬弔の意を表します

那須 ジャック カオル

九十一歳 八月二十五日往生

近藤 シゲオ シツド

九二歳 八月二十九日往生

原 キミエ様

九十歳 九月四日往生

藤野 シェアリー

サチエ 様
八十二歳 九月五日往生

槌田 一治

八十三歳 九月八日往生

近藤 タダオ テッド様

八十九歳 九月十四日往生

辻 新一 フレッド

九十五歳 九月十七日往生



高僧にならなくていい



私はカナダにこうしてくる前、日本で家族に送別会をしてもらいました。九十一歳になる祖母は私のことをすごく心配して、あと十年若ければ一緒にカナダに行くのと言っていました。こうしてカナダに来ると日本に帰れるのは一年に一度ぐらいなので、九十歳を超えてかなり体が弱ってきた祖母は一緒にきて私を手伝ってあげたいと気遣ってくれていた。そして「百歳まで生きているよ。とにかく高僧にならなくていいから体に気をつけてね。」と声をかけてくれました。

「高僧にならなくていい」この言葉で思い出す話があります。親鸞聖人が浄土真宗の七高僧の一人として大事にされた源信和尚の話です。

源信和尚は平安時代中期の天台宗の僧侶で恵心僧都とも呼ばれます。信仰心の篤い源信の母が息子の賢さを見て、「佛法を学ばせた方がこの子の為にも亡くなった夫の為にもなるだろう。」と九歳の源信を比叡山に登らせました。母親は源信に「立派な僧侶になるまでは二度と帰ってきてはなりませんよ。」と聞いて聞かせて送ったそうです。源信は母親との誓いを守って、一心不乱に勉強に励みました。そして次第に「比叡山に源信あり」と有名になり、宮中でも評判になりました。ついに時の天皇により「源信から經典の講釈を聞きたい」と比叡山に要請があり、当時十五歳だった源信は天皇をはじめ群臣百官に説法をしたのです。天皇は年若い源信の堂々たる弁舌に感嘆し、褒美として七重の御衣、香炉箱などの珍宝を与えました。晴れの舞台で大役を果たし、名声を博した源信の喜びは天にも昇る心地でした。「ああ、お母様にお伝えしたらどんなに喜んでくれるだろうか。」と源信は早速、ことの始末を手紙に書き、天皇から送られた品々と共に郷里の母の元へ送ったのです。

私は、片時もお前のことを忘れた時はありません。どんなに会いたくてもやがて尊い僧侶になってくれることを楽しみに

して耐えてきたのです。

それなのに、権力者に褒められたくらいで有頂天になり、地位や財産を得て喜んでいたりとは情けないことです。名誉や利益の為に説法するような似非坊主と成り果てたことの口惜しさよ。

後生の一大事を解決するまでは、たとえ石の上に寝て、木の根を齧ってでも仏道を求め抜く覚悟で山に入ったのではなかったか。夢のような儂い世にあって、迷っている人間から褒められて何になりましょう。

後生の一大事を解決して、仏様に褒められる人にならねばなりません。そして全ての人に後生の一大事の解決の道を伝える尊い僧侶になってもらいたいのです。母より

そしてその手紙には次のような一句が添えられていました。

後の世を渡す橋とぞ思いしに
世渡る僧となるぞ悲しき

この手紙を読んだ源信和尚は猛反省し、後に本願念仏の教えを見だし、後生の一大事を解決され、それを往生要集という書物に著され、念佛の教えを広められたのです。

「高僧にならなくていい」と言った私の祖母は源信の母親のように世俗の地位を持った高僧になることを望んだではありません。しかしまた、後の世を渡す僧、そういう意味での高僧になることも望んでいないと思います。

ただ出来の悪い私を心配し、純粹に元気でいてくれたらいいと言ってくれたのだらうと思います。私も源信和尚のように後生の一大事を解決し後の世を渡す浄土真宗の教えを広めていきたいですが、祖母のかけてくれた言葉の中に阿弥陀如来の願いを聞かせていただきます。阿弥陀如来は生死を超えた宗教的真実に目覚めてほしいとおっしゃっています。けれどもそれは現実の幸福を横に置いた話でもないと聞かせていただきます。元気で頑張ってくれ、祖母の言葉の中に阿弥陀如来の願心

合掌

カナダ教団創立記念日に際して皆様へ



カナダの浄土真宗は現在、大きな課題に直面しています。それは従来のようにカナダ在住の日本人の民族や文化から求められる精神的、宗教的な役目ばかりでなくカナダ人というもつと広い範囲の人々に伝わるべく変化させていこうという動きです。

無常という概念は、仏教の基本的な教えであり私達はその概念を身につけています。物事は一瞬たりとも同じ状態であり続けることは無い―つまり変化は避けられないことだと分かっています。はじめは受け入れがたいものも、人生において拒絶せず進んで受け入れた時、痛みは徐々に和らぐでしょう。

仏教の指月の喩えは教えや教師を指に、真実(法)を月に喩えます。そのことから分かるように私達の教団の中にも今、良くも悪くもそのいずれでなくともたくさんの変化があることは悩む事ではないのです。指を見つめることではなしに月を見なければいけない事と同じことです。

例) ・メンバー数と出席数の減少

- ・先駆者 生田享成先生と河村レスリー先生の往生
- ・兼任の若い青木総長の就任
- ・会費の五ドル増額
- ・トロント仏教会の新しい開教使の就任
- ・南部アルバータ寺院の統合
- ・ミニスターズアシスタントの増員
- ・寄付の不足
- ・行事運営に関するボランティアの減少
- ・メンバーの老齢化

私達は仏教徒という立場にあつて色々な雑音の中でもしっかりとした意識を持ち真実を見つめることが出来ます。お互いに前向きに頑張りましょう。指についてひどく苦しむことはやめ、今の私達を受け入れましょう。浄土真宗の門徒は全てを抱擁するこの素晴らしいみ教えに接することが出来るのです。こ

の精神、信心の道を知らないでどう生きるか悩んでいる人がいます。み教えをさらに学び、そしてこのみ教えによる喜びを広く他の人々に伝えましょう。

私達はこのみ教えをどのように分かち合えるかを学ぶ機会を与えられていて、それは他の人々が目覚めの道を選ぶよう助ける智慧となつているのです。

私達、皆、創立メンバーの必要性に応えるべく地方のお寺に対する援助を続けていく努力を惜しみません。

浄土真宗カナダ教団(TBC)において教団の委員会と青木総長はリビングダラムセンター(LDC)に力を注いでいます。

LDCはカナダの幅広い聴衆に浄土真宗のみ教えを広める発展したプログラムを後援しています。LDCは浄土真宗の信仰深い人々の事実上のチームで彼らは皆に教えの分かりやすさ、接しやすさを高める企画やプログラムに先頭に立って参加しています。一つの企画は私達の文化的、伝統の外にいる人に伝えるという意義のあるものです。人々にどのように浄土真宗と感謝の生活に出会ったかを語ってもらう形式でアプローチしています。この語りは www.livingdharma.ca ウェブサイトに載せられます。そして地方のお寺のウェブサイトに来た人たちに直接伝わります。

もしあなたご自身、この企画に良いアイデアがあり、または参加できる企画を見つけたらと思っていられればどうぞエイミー (wakisaka_a@gmail.com) 又はブレンダ (brenda_ikuta63@gmail.com) にご連絡ください。情報をご提

供致します。貴方が参加されなくても、私達はご縁の中にいます。寛大なご寄付とご協力と、創立者達が与えてくれた機会と責任に感謝します。

法の喜びとともに

浄土真宗カナダ教団会長

グレッグ チョー

佛心

二〇一四年十月号
浄土真宗
トロント本願寺

二〇一四年 カナダ教団創立記念日 総長メッセージ



カナダの浄土真宗門徒がバンクーバーに到着したと最初に記録されたのが一九〇四年。十四人の門徒が僧侶を日本の京都の西本願寺から求めるため集まりました。一九〇五年に佐々木千重師がカナダへの開教使として指名され、開教使の到着とともに、仏教徒たちはバンクーバー日本仏教会を結成しました。日本仏教会はサンフランシスコの米国仏教団 (MCC) 本部によって監督されていましたが、一九三二年、カナダの仏教徒たちはその独立を要求します。一九五五年、日本人仏教徒の国内会議がトロントで開かれ、カナダ仏教団 (BC) がその会議から立ち上がり、また。カナダ仏教団は二〇〇五年にその百周年をお祝いし、そして二〇〇七年、年次全体総会において私たちは浄土真宗カナダ教団 (JSBC) に名称を変更する事にしました。

我々の組織の歴史を振り返ってみると、我々は変化し続けていることが分かります。たくさんの方の終わりがあり、たくさんの方の始まりがありました。たくさんの方の別れがあり、たくさんの方の新しい出会いがありました。たくさんの方の変化があり続けたのです。仏教徒として、これが人生の性質だと良く知っています。

浄土真宗を日本仏教の中で最大で最も影響力のある宗派にした人物は第八代本願寺宗主、蓮如上人（一四一五―一四九七）

です。彼は浄土真宗の教えの中の個人的な自覚と信心を伝統の成長の不可欠な要素として強調しました。彼の熱心な伝道の結果、浄土真宗は日本の最大で最も影響力のある仏教宗派になりました。蓮如上人は個人的、私的な自覚が最も重要な要素であると強調しました。

一宗の繁昌と申すは、人のおほくあつまり、威のおほきなることにてはなく候ふ。一人なりとも、人の信をとるが、一宗の繁昌に候ふ。

現代語訳

一宗の繁昌というのは、人が多く集まり、勢いが盛んなことではない。たとえ一人であっても、まことの信心を得ることが、一宗の繁昌なのである。

私たちのお寺は法について学び聴くためにくる所です。蓮如上人は、それぞれのメンバーが深く聞き、オープンに議論し、日々の生活の中にみ教えを適用していくことにより関わりを深めていくことが必要不可欠だと仰いました。

二〇一四年のカナダ教団創立記念日を機会に、共に念仏の道を歩み、法を聞かせていただく中で、喜びを再確認させていただきたいものです。



浄土真宗カナダ開教区開教総長 南无阿弥陀仏
青木龍也